

加藤内科広報新聞 12月号

ウイルス性の感染性胃腸炎が流行しています。
寒さも厳しくなってきますので、
体調管理に気をつけて
良いお年をお迎え下さい。



インフルエンザの予防接種 実施しています

まだ、接種されていない方は、お早めに接種されることをお勧めします。

※予防接種可能な日

午前診 (土) の診察時間内 (受付時間 AM9～11:30)
午後診 (月)・(火)・(水)・(金) の診察時間内 (受付時間 PM6～7:30)

《ご希望の方は 窓口まで》

「インフルエンザにかかったかな？」と思ったらすぐに診察を受けましょう。
診察に来られる際は、感染を防ぐため、マスクの着用をお願いします。

年末年始のお知らせ

12月30日(日)～1月6日(日)までお休みさせていただきます。
お休み中は、ご迷惑をお掛けしますが、宜しくお願い致します。



【救急安心センターおおさか】

大阪府では、病気やけがで“すぐに病院に行ったほうが良いのか？”“何科で受診したほうが良いのか？”など、迷った時の相談を、24時間、無休で対応していただけます。

固定電話(プッシュ回線)、携帯電話、PHS #7119
固定電話(ダイヤル回線)、IP回線 06-6582-7119

【休日診療所のご案内】 (12月30日から1月4日)

※泉北急病診療センター 堺市南区竹城台1丁8-1 TEL072-292-0099
診療科目 内科・小児科
受付時間 9:30～11:30 12:45～16:30
小児科のみ 17:30～翌日4:30 も受付しています。

※宿院急病診療センター 堺市堺区甲斐町東3丁2-6 TEL072-223-6170
診療科目 内科・小児科
受付時間 9:30～11:00 12:45～16:30

ノロウイルス感染が流行しています



ノロウイルスは、冬季を中心に発生する感染性胃腸炎の原因となるウイルスです。感染力が非常に強く、ごく少量のウイルスでも口から体内に入ることによって感染します。今季では特に、成人の方が多く感染されているため、小さいお子さんや高齢者の方などご家族にうつさないためにはどうしたらいいかをまとめてみました。

どうして感染するのか？ また症状は？

ノロウイルスに汚染された食品を食べて感染する。また、感染した人のおう吐物を介して他の人へ感染する。吐き気、おう吐、発熱、腹痛、下痢などの症状が現れ、ウイルスは1週間程度ふん便とともに排出されます。

ノロウイルスに感染した場合、家族へうつさないようにするにはどうしたらいいか？

【手洗いをきちんと行いましょう。】

調理や食事の前、おう吐物・ふん便を処理した後は、特に念入りに手を洗いましょう。石鹸を使い十分にこすり洗いし、水で洗い流すことにより、ウイルスは大幅に減少します。こすり洗いは30秒を目安にしてください。また、タオルは共用せず、個人ごとに専用とするか、ペーパータオルを使用しましょう。

【おう吐物・ふん便は正しく処理しましょう。】

処理するときの準備

バケツ・塩素系消毒液(ハイターなど)・ゴム手袋・マスク・エプロン・ビニール袋・布やペーパータオルなど

処理方法

- ① 処理をする人は手袋とマスク、エプロンを着用します。
- ② 汚物(おう吐物・ふん便)は、布かペーパータオルで外側から内側に向けて、折り込みながら拭いとります。使用した布やペーパータオルは、すぐにビニール袋に入れます。
- ③ 汚物が付着していた床とその周囲を、塩素系消毒液を染み込ませた布やペーパータオル等で浸すように拭きます。トイレのドアノブ等も消毒しましょう。
- ④ 汚れた着衣は廃棄するのが望ましいですが、消毒する場合は85℃で1分以上の熱湯消毒か、塩素系消毒液に30～60分間浸し、消毒後他のものと分けて洗濯して下さい。色物や柄物は色落ちをしますので注意して下さい。
- ⑤ 使用した手袋、マスク等もビニール袋に入れ、処分して下さい。汚物の入ったビニール袋は、再度ビニール袋に入れ(2重以上にする)処分しましょう。
- ⑥ 処理後は手洗いをしっかり行います。



症状がなくなった後もウイルスは2～4週間、便の中で生き続けると言われています。感染する可能性があるうちは、感染予防をしっかりと行いましょう。